

3年 福祉実践教室

ふだんのくらしをしあわせに 市役所の方が講師をしてくださいました



ふだんの生活（歯磨き・食事・散歩など）ができることは幸せ。だれにとっても大切に守らなくてはいけない幸せ。だれもがふだんのくらしの幸せを守れるように勉強をしています。

ひとみ

校長だより No. 11

R6.5.23
高浜小学校



二年生がリード
一年生の手をとって、
一緒に楽しく、校内めぐりをしました。



上..五年の家庭科です。
お茶を入れました。
右..一年生です。応援と拍手がいっぱいでした。
左..三年の園工です。
左..先生たちの勉強会です。
『手品師』という作品をもとにして学びました。



『緑の募金』へのご協力、 ありがとうございました！



ひとみ

校長だより

No. 12

R6. 6. 5
高浜小学校



栽培委員会の活動として、緑の募金が行われました。朝、お金を大事に握りしめて募金する笑顔！と見せてくれた子どもたちもいました。お金の活用は、主に緑の募金に使われます。



● ソフトボール
投げ 右下一
年 左下六年
● 50M 走 右上
一年
● 立ち幅とび
上一年
左上 六年



冷静に対処 『自分にできることをした』

先日、道ばたにしゃがみこんでいた高齢者を見かけた二人（写真）。心配して近寄り『大丈夫ですか』と声をかけると、頭から血を流しているのが分かりました。二人は両手を大きくふって走行車に助けを求め、救急車とケガされた方の家族に連絡しました。救急車と高齢者の家族到着まで寄り添い、名乗らずその場を去りましたが、家族の方がお礼を伝えたいと高浜小に問い合わせ、全校集会で呼びかけたところ、六年生の大嶽碧人さん、藤堂一輝さんだと分かりました。二人はこれからも困っている人を見たら助けたいと話しました。



ひとみ

R6.6.6
高浜小学校

六月の全校集会では、『声や音』について触れながら『全身で話を聞く』気持ちになってほしいと以下のように話しました。

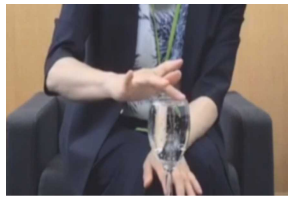
まず、のどに手を当て、声を出す時わずかに震えているのを確かめました。声はのどを震わせ空気の中を波のように伝わります。

次にグラスのふちを軽くこすってふるわせ音を出しました。案外きれいな音が出ます。(家で試す時は、指を水でぬらしてすべりやすくしてください)。では、グラスいっぱい水を入れたら音はどうなるでしょうか。

- 1 高くなる
- 2 低くなる
- 3 かわない
- 4 その他

さっきより低くなりました。音が変わったのは水を入れた分重くなりグラスのふるえ方がゆっくりになり、空気の中を伝わる音の波がゆったりしたからです。(ジェスチャー)

音の波は、空気の中を伝わって私たちに届きます。だから時にはすごい人がいて、耳で聞く代わりに全身で音の波を感じる人もいます。全身が耳になっていような人です。その人のことを少しだけ紹介します。絵本にもなっています。(下)その人は『エヴエリン・グレニー』と言います。耳の病気で小学校を卒業するころには耳では音が聞こえなくなっていたそうです。

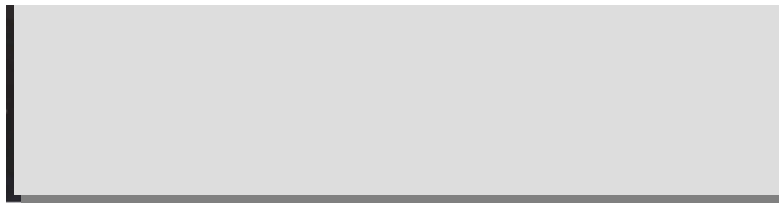


ある時、エヴエリンの先生が『エヴエリン、音を感じて』と『ドンツ!』とティンパニをたたきました。その時、大きな「ふるえ」がエヴエリンのお腹や背中や足に伝わって体中をふるわせました。エヴエリンはいそいで靴をぬいだそうです。指先に伝わったふるえが手と腕を通して反対の腕まで届いてそれにこたえるように心臓までドキドキ、はげしく波打って、全身が耳になったよう、とありました。神経がとぎすまされたんですね。この後、エヴエリンはプロの音楽家を目指します。そして世界中で演奏するプロの打楽器演奏家になりました。

エヴエリンの演奏は、エヴエリンにしかできない独特の演奏です。楽器のわずかな違いを感じて、コンサート会場の作りの違いや、お客さんがどのくらい入ったらどんなふうに変わるかなども考えながら演奏して人を感動させています。

エヴエリンがどんなふうに演奏しているのかちょっとだけ聞いてみましょう。(演奏を少し流しました)

今日は、「声や音」についてお話ししました。これからみなさんが、音の波を感じようとするくらい、一生懸命に話を聞く人になってくれたらうれしいです。これで話を終わります。



TED 『エヴエリン・グレニーが「聴き方」について語る』より



今月はZOOMによる全校集会です



児童会役員代表のあいさつ

6年生は算数が難しくなっていますが、がんばりテストに向けて、全力をつくしましょう!(児童会奥村さん)



今月の表彰の様子(絵画作品展)

助け合って成り立つ車椅子ダンス



3年生が車椅子で生活されている鈴木さんを講師に招いて、福祉の勉強を進めました。

ひとみ

校長だより

No. 15

R6.6.19
高浜小学校



5年生 歯磨きの大切さを学びます

他の活動の様子を紹介します



6年生道徳授業です



3年生の習字です



4年カッターで箱作り



てきぱきと当番が盛り付けます(2、3年生)



校内教員研修『ざくばら会』



スポンジのように知識や技術の習得を！子どもたち主体の学級会の進め方は？



書写・漢字指導は、上部・下部をそろえる、大まかな形をとらえることが大切



「覚える」「数える」「写す」「見つける」「想像する」力を伸ばす『コグトレ』

『叱る』については色々な考え方があると思いますが、はま先生の言われることは、私には府に落ちるところがあります。6月は、大人も子どもも疲れが出やすい時期だと言われています。元気に気持ちよく過ごしてほしいと思います。



子どもを叱らなくてはいけないことが起こったとしても、叱る時は、教師自身が心身爽快の時に限ります。風邪を引いたり睡眠不足だったり、どこか心が暗く元気がない時は、小言を言わない方がいいようです。そのような時に小言を言うと、言葉が多過ぎたり言い過ぎたり、調子がかきすぎたりということになりやすいからです。自分が明るく平静な気持ちのときには、言うべきことをびしっと言えるでしょうが、そうでないときは慎むべきだと思います。自分が自分らしくないときに小言を言うのは、こわいことです。そして不思議なことに、「今日はやめておこう」と思って慎んだ小言は、二三日たつと、言わなくてもかまわなかったことになってしまっているのです。

自分が自分らしくないときは、小言を言わないようにしていました。この言葉は、90歳を超えてなお、教育の研究、特に言葉の重要性の教育研究に励まれた大村はま先生によるものです。多くの言葉を残された先生が、口をつぐむよう意識されていたのはどんな時なのか、ご紹介します。

ひとみ

校長だより

No. 16

R6.6.24
高浜小学校



毎月、校内で行われるざくばら会では、教員としての知識や技能等を学びます。この場では、ざくばらんに意見交換も行います。校務主任をコーディネーターに色々な情報交換をし、勉強しています。

学校関係者評価委員会

学校の取組を子どもたちの姿から見ていただきました！

校長だより

No. 17

ひとみ

R6.6.26
高浜小学校



委員の皆様

高浜市の小・中学校では、学校ごとに学校関係者評価委員会を組織します。『学校、家庭、地域』が協働して学校づくりを展開するよう、委員の皆さんからご指導・ご助言をいただき、学校運営の改善を図ります。

石川定次様

人権擁護委員
神谷章一様

たかはまこども園長
高瀬由佳様

中央保育園長
杉浦さと様

高浜中学校教務主任
近藤陽子様

令和5年度PTA会長
神谷琢様

令和6年度PTA会長
片岡慶一郎様

石川様、神谷琢様は所用にて欠席されました。



まちづくり協議会では、子ども110番のぼり旗を110箇所に設置します。子ども達が緊急避難先として安全を守るために実施していることだと意識できるよう、学校からも説明をお願いします。また、熱中症の心配があるので体育の授業こそエアコンが必要なのではないでしょうか。警戒アラートを意識して適切に運用していただけたらと思います。

子ども達はどのクラスも落ちついて授業に参加できていると思いました。机の上に置く物、声をそろえて読みましよう、という先生の声かけ、ルールがしっかりしていました。学年が上がるにつれ、タブレットをよく使っていました。中学生はほぼ毎時間使います。小学校で慣れているので年々できることが増えていっていると思います。環境面では広さやロッカーの大きさがうらやましいです。図工の立体作品が置けます。背面掲示もいいます。ただ、絵の具セットが積み上がって見えない部分があったのが残念でした。主題研究では、道徳に力を入れているのが素敵だと思えます。道徳の授業の組み立て方が学べるのはとてもいいです。道徳性を高めることは日々の生活に直結すると思います。

今回の要項は写真がたくさんあり、資料も読みごたえがあ



りました。校長先生の出されている『ひとみ』には、保護者と共に子どもを育てていくという、温かい目を感じました。園の先生にも卒園生を見てもらい、園と小学校が連携して子どもの成長を支援できるとよいと思います。子ども同士の交流も再開していけるとありがたいです。

数年、この会に参加していますが来る度に学習の成果を求められていると感じます。

『主体性』が課題になってくると思います。園でも、当事者意識、当事者性を育てようと話し合っています。また、若い保護者の方が自信をもって小学校生活を送れるように、園でも支援していきたいと思っています。



授業参観では、見ることでできない子どもの姿を見ることができて良かったです。今後、もっとデジタルを増やしていくといいのではと思いました。子ども達が板書等待つ時間が減らせるのでは、と思います。また、先生方もブラッシュアップしやすくなるのではと思いました。先生方には元氣よく授業をしていただきたいので、負の側面は上手にカットしていかないと、と思います。例えば夕方の方の電話受付時間は、勤務時間で終了するのがよいと思います。



4年 総合的な学習の時間



貴重なご意見をいただきまして、本当にありがとうございました。今後の学校経営に生かして参ります。



あまりに先生方が便利に動きすぎると、先生方が疲弊してしまいます。
その他、電気料金の高騰もあり、体育館のエアコン使用についての話がありました。エアコンは適切に使用すべきだと思います。料金負担の問題についても検討が必要なのではないでしょうか。
また、子どもの『食えること』を大事にしていたきたいと思います。体験格差をなくす、ということでもどの子にも豊かな食体験を願います。可能な範囲で給食費の値上げを考えても良いのではないのでしょうか。



3年 総合的な学習の時間



3年 図工 生まれかわったなかまたち



5年 理科 流れる水のはたらき



作った砂山に水が流れる様子を撮影



栄養教諭の給食指導 栄養バランスに加えて季節の行事や授業の流れをみて献立を考えます



第41回少年の主張大会

令和6年6月23日（日）14:00～ 於：高浜小学校体育館



本校の代表として、6年岩戸大空さんが参加しました。多くの方々を前に堂々自分の考えを発表していました。以下に発表を紹介します。

校長だより

No. 18

ひとみ

R6.6.27
高浜小学校



「早く」と言われない大人の自由

なぜ大人は「早く、早く」ばかり言うのだろうか。「早く起きなさい」「早くゲーム終わりなさい」「早く宿題やりなさい」「早く片付けなさい」「早くお風呂に入りなさい」「早くねなさい」多くの周りには「早く、早く」があふれている。そんなに「早く」が大事なのか。ぼくだってちゃんと時計を見ているし、先のことも考えている。たまに、友達とゲームをやりすぎたり、YouTubeを見続けていたりして「もうこんな時間？」とおどろいたことがあるけれども、それでもそんなふうになることはめったにない。ぼくは自分のペースを大事にしているのだ。それを分かってほしいと思う。だいたい、大人は「早く」を大事にする割に行動がともなっていないことがある。先日も出かける時間を決めたのに、両親の支度がおくれたことがあった。ぼくが「早く、早く」とせがむと、「ごめんと言ったでしょ。」などとおこられてしまったのだ。子どものぼくは言いたいことをぐっとこらえて、頭の中で、大人って、なんて理不尽なんだと考える。

ながらあらしが去るのを待っているしかない。ぼくの方が百倍多く母から「早く」と言われているにもかかわらず、だ。やっぱり理不尽だ。大人が一方的に理不尽なことを言うのは間ちがっている。絶対におかしい。ぼくはそんな大人になりたくない。早く大人になって、「早く、早く」と言われずに自由になりたい。

しかし、どうやって大人になれるのか。十八才で成人だから、自動的に大人になるのか。もし、知らないうちに大人になるのなら不安になる。なぜなら、大人にはできて、子どものぼくにはできないことがいっぱいあるからだ。例えば仕事をしてお金をかせぐこと。他にも車の運転、洗たく、そうじ、料理。まだまだいっぱいあると思うけれども、あと六年で全部できるようになるとは思えない。中学校、高校へ進学したら、勉強ももっと大変になりそうだ。友達と遊んだり、野球をもっとやったり、やりたいことがたくさんある。これからやりたいことが増えていくと思う。大人になるための準備もしていかないといけないのか。何をすればいいのかまったく想像できない。

ある日の夕方、ぼくは家庭科の調理実習で作ったことがある野菜サラダを家で作った。

しかし、ジャガイモのゆで加減を間ちがえてしまい、固い部分が残ってしまった。母と失敗したサラダを食べているときに、

「ねえ、ぼくはどうすれば大人になれるの。」

ママはどうやって大人になったの。」と、思わず聞いていた。すると母は、「体はね、よく食べて、よくねていたら年とともに大人の体になるよ。でも、大変なのは中身。全部一人で決めたり、行動したりしないといけないことが増えるの。しかも、その全部に責任がついてくるからね。そこが大変だね。でも、だいじようぶ。最初から全部できる人なんていないから。」と、ぼくの目を見てゆっくりと話してくれた。さらに母は、「みんないろんな間ちがいや失敗をして覚えていくの。ママが今までにいろんな失敗をしているのを見て知っているでしょ。大人だっているいろいろ大変なんだから。だから、大人になるって、いろんなことにチャレンジした経験の積み重ねなのかもね。」と話してくれた。

大人は何でも自由にできるし、勉強しなくてもいいと思っていたけれども、母の話を聞

いてたら、思ったよりも大変そうだと。責任がついてくると考えたら不安だから、まだ子どものままでいいとさえ思えてしまう。でもその一方で、いろんなことにチャレンジして経験を積んでみたいと思う自分もいることに気づいた。その日から、仕事から帰ってくる母を手伝うために、一人でごはんを作る日を増やしたり、時には買い物をしたりして、チャレンジを増やした。そんなぼくを見た母は、「これで大人になってても安心だね。」とほめてくれた。ぼくは照れてしまったけれども、自分にもできるんだという自信がついて、とてもうれしくなった。

両親が「早く、早く」って言うのは、だからだらしていると時間がもったいないと考えていたからなのかもしれない。時間を有効に使って、たくさんの経験を積んだ方がよいと思っただけの一言だったかもしれない。ぼくが、母の年れいに近づいたとき、子ども時代の気持ちを忘れない大人になりたい。そして、母のように自分の行動に責任をきちんととれる大人になりたい。



岡本教育長からは、誰もが聞いたことのある『早く』という言葉に、当初反発を覚えながらも、家族との会話や経験を積むことで、『時間を有効に使い、責任ある行動がとれる大人になりたい』との主張は見事でした。ぜひがんばってくださいとのメッセージをいただきました。

児童会スローガン

スマイル！ ～みんなでつくる高小の絆～

校長だより

No. 19

ひとみ

R6.6.28
高浜小学校



児童会役員が、『スマイル』のスローガンに「みんなが笑顔で生活してほしい」「みんなが協力し、支え合い、絆を深めてほしい」と願いを込めました。このスローガンのもと、楽しい時間をたくさん共有し、たくさんの方の『スマイル』が生まれ、互いの存在を認め合う仲間となるよう、児童会役員が力を尽くしています。

今回、児童会役員は、ペア交流会を企画・実施しました。前半の20分放課に『先生クイズ』、後半の昼放課にゲームを行っています。クイズは、取材、作成など念入りの準備で大変楽しく、みんな笑顔で盛り上がりました。ゲームも大人数かつ異学年全員が無理なく楽しめるものに工夫されていました。スマイルいっぱいの子に、感心したり感謝したりと、心が温かくなりました。2・5年のペア交流、1・6年のペア交流の様子を少しご紹介します。

3・4年の紹介は次回になります。



児童会役員による説明です



先生クイズをペアで相談します



退場時、ペアへ拍手を贈ります



3択クイズに答えています



ペアで相談中です



児童会役員のゲーム説明です



主題研全体授業研究 6年

ひとみ

高浜小学校



6月25日に、6年生で道徳の研究授業が実施されました。学習指導要領に書かれた目標は、『よりよく生きようとする人間の強さ・気高さを理解し、人間として生きる喜びを感じる』です。

まどみちお（詩人）が母校の子ども達へおくれた手紙が教材です。今回も岐阜聖徳学園大学の山田教授を講師にお招きし、研究協議会をもちました。様子をお知らせします。



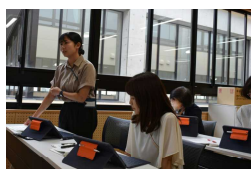
まどさんからの手紙
(略)
こどものうちに
いまのうちに
まいにち まいにち
そうしてやろうと
おもって
げんきいっぱい
にがんばっていけば
それをやる ちから
をもつ りっぱな
おとなに なれるの
です。
どんな ちいさなこ
とでも
ぜんりよくを あげ
てやる
しゅうかんを つけ
るのが
いちばん たいせつ
なのです
ぜんりよく あげて
がんばって
ぜんりよく あげて
たのしんでくださ
い。



『心の数直線』
 を使い、全力
 で取り組むこ
 とにについて考
 え話し合いま
 す。自由に割
 合を変えられ
 とがでるの
 で話し合おう
 変化が
 ます。



「心の中を語る」ことは、難しいと感じるときがあります。『心の数直線』で心の中を見える化すると、對話がしやすくなります。例えばこの30%には、どんな心があるのかについて對話が充実できています。心の中を語るには、心の中を見える化すると、對話がしやすくなり、例えばこの30%には、どんな心があるのかについて對話が充実できています。



研究協議会です



児童会スローガン

スマイル！
～みんなでつくる高小の絆～



子ども達は、『人と関わる
ことが好き、集団活動って



楽しい』、そう感じる
関わりを重ね、次第
に、『協力できた、
自分から働きかけた、
誰かの役に立った』、
という集団の一員と
しての自信を獲得し
ていきます。

